

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	建築デザインによる地域活性化のための提案型授業形態の研究開発		
学校法人名	学校法人 中央工学校		
学校名	中央工学校		
代表者	理事長 大森 厚 校長 須郷 進	担当者・連絡先	教務部次長 松田 正之 東京都北区王子本町一丁目26-17 TEL 03(3906)1211 FAX 03(3906)1250
<p><事業の概要> 本事業の概要は以下のとおりである。</p> <p>1. 事業の目的 この事業は、「学生により地域活性化のための“街づくり”としての視点に立った提案を行い、若い感性による自由な発想を具体化させ、外部委員によるマーケティング指導、学生による現地調査を行い、地域に要求される機能を追及し、実社会との触れ合いを通して学生の社会性を育成する授業を研究開発する」ことを目的として、文部科学省の委託を得て「専修学校先進的教育研究開発事業」の一環として行われた。</p> <p>建築を学ぶ学生にとって設計製図は学習の原点であり、それだけに学習意欲は高くそこに費やす時間も必然的に多くなる。しかしながら平素の授業においては与えられた要項に則り、単純に課題を制作するだけに終始してしまうことが多いのも事実である。結果的に自己満足の域を出ない作品が多く見受けられるのは、学生の視点が教室の中から抜けきらないためであり、提案性のある作品が少なくなる傾向は否めない。</p> <p>そこで平成15年度に実施した「地域ブランド確立のための建築デザイン・コンペティション」における成果を発展させ、「地域活性化」を主題とする建築デザインを募り、より現実的な提案を地域に対してプレゼンテーションすることを目的として、「建築デザインによる地域活性化のための提案型授業形態の研究開発」と題して、実施された。</p> <p>地域を活性化する建築デザインを提案する対象地域の工務店・建材店、商店、地域団体等から、その地域に関する様々な情報の提供を受け、学生はその情報に基づき、対象地域にふさわしい建築（住宅）デザインの提案を行なった。提出された作品は審査・講評のうえ優秀作品を選出し、コースによっては表彰された。優秀作品は、地域のイベントなどに制作者（学生）を参加させたり、協力店舗のクライアントの前でプレゼンテーション等を行うことにより、企画から販売までの一連のプロセスを体験し、インターンシップを超えた業務の流れを理解できる機会となった。</p> <p>2. 事業の実施内容 ア. 事業実施方法 「実施委員会」の下に「各校分科会」を設置し、参画各校の事業運営の主体とした。さらに分科会の下部に各校WG（：Working-Group）を設け、事業の実行を担うこととした。</p>			

【 実施委員会の構成 】

役 割	氏 名	所 属 ・ 職 名
実 施 委 員 長	堀口 一秀	中央工学校 教務部 部長
副 委 員 長	松田 正之	中央工学校 教務部 次長
事 務 局 長	岡部 公一	中央工学校 建築学科 主任
委 員	春日 泰	中央工学校 建築学科 (分科会座長)
"	平上 秀明	中央実務専門学校 主任 (分科会座長)
"	山本 俊彦	中央実務専門学校 主任
"	加藤 直樹	浅野工学専門学校 教授 (分科会座長)
"	戸塚 芳徳	浅野工学専門学校 助手
"	尾林 徹	読売東京理工専門学校 学科長(分科会座長)
"	高谷 武	修成建設専門学校 教授 (分科会座長)
"	宮崎 宗久	修成建設専門学校 教員
外部コーディネーター	内堀 幸雄	(株)住環境ネットワーク情報センター
"	松井 誠廣	(有)松井住宅
"	奥山 浩司	(株)奥山工務店
"	杉浦 一広	岡崎建材(株)
"	細矢 仁	(有)細矢仁建築設計事務所

イ．提案型授業の構築

以下の流れによって、調査・企画・設計・プレゼンテーションまでを体系的に学び、インターンシップを超えた、地域や産業界との関わりを密接に構築できる提案型の授業形態を研究開発した。

・対象地域の選定と調査

参画する各校により対象となる地域を選定し、現地調査と外部コーディネーターによるマーケティング講義を行い、対象地域の活性化ニーズを把握した。

・地域活性化策の作成

建築デザインによる地域活性化策となる提案主旨をまとめ、これに基づいた企画・設計を行なった。外部コーディネーターの評価を得た後、プレゼンテーション作品としてまとめ、優秀作品を選定し、コースによっては表彰が行なわれた。

・地域への提案と評価分析

優秀作品として選定された学生による地域へのプレゼンテーションが行なわれ、それに対する地域の評価を調査し、結果を分析し考察を加えた。

・総合発表会・展示会

参加各校の上位優秀作品の発表と総合展示を行い、成果と問題点の共有化を図った。

・学生の意識調査について

本事業に参加した学生に対し、事業の最終段階において、地域との関わりの中で得られたこと、実務に近い授業展開から感じたこと、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の重要性の認識度などについて、アンケートによる意識調査を行い、学生の社会性の育成度合いなどを検証するとともに、地域の評価を加えて、本事業の成果について考察した。

3. 提出作品数等

前述した目的を達成するために、東京の専門学校中央工学校を中心として、中央実務専門学校・浅野工学専門学校・読売東京理工専門学校・修成建設専門学校の協力を得て、地域にふさわしい建築デザインの提案を募った。対象となった地域と、課題のテーマ名及び取り組んだ各学科および学生数は以下のとおりである。

学校名	科名	課題名	学生数	作品数
中央工学校	建築工学科	足助町を活性化する手段としての建築的提案	25	6
	建築設計科	地域活性化のための住まいづくりの提案	81	50
	女子建築設計科	"	17	9
	建築室内設計科	王子の商店計画	68	19
	建築意匠設計科	軽井沢の家	15	15
中央実務専門学校	建築設計科	インターフェイス	27	9
	建築工学科	"	6	3
	福祉建築デザイン科	福祉の街づくり	11	2
浅野工学専門学校	建築デザイン科	ミサキプロジェクト	32	2
読売東京理工専門学校	建築学科	慶應通り商店街	50	15
修成建設専門学校	総合建築学科	平野郷「おもろ井戸端」	27	6
合 計			359	136

<成 果>

1. 事業の成果

本事業の成果は、概要以下のとおりである。

この事業は「我が国の経済社会を支える、即戦力となる人材の養成を図るため、専修学校において、緊急に対応すべき課題に迅速に応えるための、新しい教育方法等の研究開発を行う」ことを主眼に実施された、「専修学校先進的教育研究開発事業」の一環として行われた。また、併せて専修学校教育システムの基盤を整備し、専修学校における生涯学習機能をさらに充実・強化することを、平成15年度から継続する目的として行われたものである。

この目的を達成するために、事業名を「建築デザインによる地域活性化のための提案型授業形態の研究開発」とし、中央工学校を幹事校とする専門学校5校による協同事業として進められた。各校様々な切り口から目的達成のための努力を試みた結果、皆一応の成果を挙げることができた。

「地域活性化」というテーマに対し、平成15年度から継続する「足助町(愛知県加茂郡)・「湘南(神奈川県三浦市)」のほか、「王子森下通り(東京都北区)・「慶應通り(東京都港区)・「軽井沢(長野県軽井沢町)」、大阪から「平野郷(平野区)・「空堀(中央区)・「豊中市寺内」などの地域が選出された。各校工夫をこらした学生指導を展開し、従来にない新しい授業の可能性を追求している。特に2年間継続となった、中央工学校による「足助町(愛知県加茂郡)・浅野工学専門学校による「湘南(神奈川県三浦市)」は、継続による利点を十分に発揮させている。外部コーディネーターである、(有)松井住宅の松井誠廣氏による働きかけの結果、足助町においてプレゼンテーションを実施し、学生の能力向上の一助となった。また、浅野工学専門学校による「ミサキプロジェクト」は、昨年度に制作された作品をもとにして、(株)奥山工務店の奥山浩司氏により実際に建設計画が進められており、平成17年度以降の発展的展開が期待されている。

平成 15 年度からの継続事業として、昨年度の反省は、「地域への提案」にこだわるあまり、「コンペティション」を重要視し、成果作品の量と質を高めることに指導の重点と関心があつた。本来の目的が「新しい授業形態の研究開発」であることを考えれば、やや方向性に誤りが見られたことは否定できない。そこで今年度は事業開始当初より、「作品の量を求めることよりも、従来にない新しい授業形態を研究する」ことにこだわりを持ち、その点において成果を挙げることができた。一例を挙げれば、中央工学校による「王子の商店計画」(Shop Designing in 王子) 王子森下通り商店街における地域活性化の提案 においては、学生が店舗の改装計画を立てて商店主に直接提案(プレゼンテーション)を行った。商店主側においても新たな経営アイデアなどの吸収につながり、商店街代表からは、「学生との交流が進み、商店主が刺激を受ければ商店街全体の活気につながる」との期待を込めたコメントをいただいている。これが本事業の目的である、「地域活性化」への提案の成功例であると思われ、産学交流を通じた「新しい授業形態」がもたらした成果であるとする。ちなみにこの取り組みは、日本経済新聞および読売新聞をはじめ多くのメディアに掲載され、専門学校による新しい方向性を示すものとして注目を受けた。

中央工学校による「王子森下通り商店街における活性化の提案」、読売東京理工専門学校による「慶應通り商店街」においては、学生が店舗の改装計画を立て、商店主に直接提案を行った。商店主側においても新たな経営アイデアなどの吸収につながり、「地域活性化」としての提案を現実感あるものに行っている。これらは産学交流によって得られた「新しい授業形態」がもたらした成功例であり、学生による提案を希望する新たな商店街もすでに現れており、今後の発展に期待したい。

浅野工学専門学校による「ミサキプロジェクト」は、プロジェクトの進行状況をホームページ上で公開するなどの、新しい試みが見られた。また、昨年度の事業において制作された作品をもとに、実務者との教育連携によって実際に建設計画が進行しており、今後の発展的な展開が期待される。

中央実務専門学校・修成建設専門学校では、地域への提案を「高齢者」・「福祉」・「街づくり」という現代社会が抱える問題に結びつけ、学生の社会的視野を広げる授業展開を行っている。建築と社会との関わりは密接であり、そこに発生する様々な問題を掘り下げる授業が行われた。その結果、提案性豊かな作品ができ上がり、対象地域への提案を実現させている。

これらのすべての事業において、成果作品を提出し終えてから後の「地域へのプレゼンテーション」に重きをおき、年度末のぎりぎりまでその成果を挙げることに努めた。また今年度は、学生を始めとして本事業に関わった外部コーディネーターや、提案の受け手である「地域住民」に対して意識調査を行い、事業の成果を検証した。これにより、各事業の成果を確認することができる。

最後に、これらの成果品のうち、優秀作品は、平成 17 年 2 月 15 日(火)から 19 日(土)まで、東京都港区にある建築会館ギャラリーにて公開展示された。その案内葉書は関東近県の高等学校約 800 校の他、関連する企業約 200 社に発送され、専門学校教育について理解を深めていただく有意義な情報提供の場となった。学生にとっては日頃交流の少ない他校の作品を見ることが刺激となり、更なる学習意欲を喚起することができたと思われる。

即戦力・起業家精神を育む専門学校において、「実務教育」と「正確な職業観の育成」は、教育の根幹となる重要な部分である。本事業によってもたらされた、社会の風を巻き込んだ教育を行うことは、今後も普遍的な姿勢として継続させていきたい。

2. 今後の検討課題

前項で述べたように、本事業の目的を達成するため、作品完成後地域へのプレゼンテーションを行い、学生の能力向上に努めた。各地域へのプレゼンテーションは大変有意義であり、本事業の目的に沿った成果を挙げることができたが、年度末の事業終了を控え時間的に逼迫し、ゆとりのないまとめ方になってしまったことは否めない。これは、地域に対し学生が提案を行うためには、例えば商店街の年末年始の繁忙期を避けるなどの配慮が必要になり、どうしても年が明けてからそれを行うことになる。その結果としてやや不十分な内容となったことを反省し、今後の検討課題としたい。

今後各協力校が、文部科学省による委託事業との関連をもたない状況において、今回の成果を十分に活かし、新しい授業の研究開発を行うことが重要である。継続的な取り組みにおける、今後の発展が期待される。